



613-000710 Rev.C 070705



最初にお読みください

CentreCOM® 9424T/SP-E・9424Ts/XP-E リリースノート

この度は、CentreCOM 9424T/SP-E・9424Ts/XP-E をご購入いただき、誠にありがとうございました。

このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。


最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 2.0.0J

2 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン 2.0.0J には、以下の制限事項があります。

2.1 コンパクトフラッシュ


 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「記憶装置とファイルシステム」

- コンパクトフラッシュ上のファイルに対して、ディレクトリーを指定して以下のコマンドを実行することができません。

COPY
RENAME
DELETE
SET CFLASH DIR

- SHOW CFLASH コマンドの表示項目「Number of directories」に、カレントディレクトリーにあるサブディレクトリーの数ではなく、カレントディレクトリーにあるファイルの数 (= Number of files と同義) が表示されます。

2.2 SNMP (9424Ts/XP-E のみ)

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

プライベート MIB の以下のエントリーに対して Get Bulk Request を受けると、正しく値を返さない場合があります。


atiStkSwSysInfoGroup 配下
- atiStkSwTemperatureInfoEntry
- atiStkSwFanInfoEntry

2.3 マネージメントアクセスコントロール

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「マネージメントアクセスコントロール」


マネージメントアクセスコントロールが有効の場合、本製品で ARP が解決されずに正しくルーティングできないことがあります。ルーティング機能使用時に、本製品 (CPU) 宛てのパケットをフィルタリングする場合は、ハードウェアパケットフィルターを使用してください。

2.4 SHOW SWITCH COUNTER コマンド

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」


SHOW SWITCH COUNTER で表示される「Frames 1519-1522 Bytes」が正しくカウントアップされません。

2.5 SET SWITCH PORT コマンドの MDIMODE パラメーター (9424Ts/XP-E のみ)

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」


SET SWITCH PORT コマンドの PORT パラメーターに ALL、MDIMODE パラメーターに MDI または MDIX を指定して実行すると、「ERROR: Failed to configure port 25」というエラーメッセージが表示されます。表示だけの問題で、10/100/1000BASE-T ポートに対しては、MDI/MDI-X が正しく設定されます (XFP ポートに対して MDI/MDI-X の設定はできません)。

2.6 ポートランキング

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」


- トランキンググループの最若番ポートを抜き差しすると、接続の組み合わせによって、ポートのリンクアップトラップが生成されない場合があります。
- トランクグループからポートを 1 ポート削除すると、残りのトランクポートでリンクダウン・アップが発生します。

2.7 ポートミラーリング

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」


本製品宛の ICMP Echo Request パケットをミラーリングすると、送信元 MAC アドレスが本製品自身の MAC アドレスに書き換えられて出力されます。さらに、9424T/SP-E については、タグが付与されて出力されます。

2.8 RRP Snooping

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「RRPSnooping」

RRP Snooping 使用時、マスターからスレーブへの切り替えが発生すると本製品の FDB がクリアされますが、この際、切り替え前のマスター接続ポート以外のポートの MAC アドレスが削除される場合があります。

2.9 ポート認証

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート認証」

- Single-Supplicant モードの場合、EAP-Request パケットの宛先は、条件により異なります。サブリカント対象の MAC アドレスを FDB に学習していない場合は、マルチキャストで送信しますが、学習後は、ユニキャストで送信します。
- ポートを 802.1X Authenticator ポートに設定すると、同ポートで自動的にイーグレスフィルタリングが有効になり、その設定が設定ファイルに書き込まれます。Authenticator ポートではイーグレスフィルタリングが有効になっている必要がありますので、イーグレスフィルタリングの設定は変更しないようにしてください。
- ポートを 802.1X Authenticator ポートに設定すると、設定ファイルにイーグレスフィルタリングを有効にする設定が自動的に書き込まれますが、802.1X 認証を無効に設定しても、イーグレスフィルタリング有効の設定が解除されません。


- ポートを 802.1X Authenticator ポートに設定すると、設定ファイルに「set switch port=xx securitymode=pacontrol」という設定（未サポートのセキュリティーモード設定）が自動的に書き込まれます。
- SET PORTAUTH PORT または SET PORTACCESS PORT コマンドの SERVETIMEOUT/SERVTIMEOUT パラメーターに 31（秒）以上の値を指定すると、タイムアウト値が 60（秒）で動作します。
- 802.1X 認証有効時、登録された 3 台の RADIUS サーバーのうち、優先順位 1（ORDER=1）のサーバーから応答がないと、優先順位 2 と 3 のサーバーに対して同時に Access-Request パケットが送信されます。
- ポートがリンクダウンしているときに、SET PORTAUTH PORT または SET PORTACCESS PORT コマンドの CONTROL パラメーターを設定変更できません。
- SET PORTAUTH PORT または SET PORTACCESS PORT コマンドの MODE パラメーターに MULTI、CONTROL パラメーターに AUTHORISED を指定しているとき、SHOW PORTAUTH（PORT）または SHOW PORTACCESS（PORT）コマンドでサブリカント数が正しく表示されない場合があります。
- MAC ベース認証において、複数の RADIUS サーバーを登録している場合、2 台目以降のサーバーを使用して正しく認証を行うことができません。
- SET PORTAUTH PORT または SET PORTACCESS PORT コマンドの TYPE/ROLE パラメーターに NONE を指定すると、指定ポートの設定をデフォルトに戻すことができますが、このとき、PORTAUTH/PORTACCESS パラメーターに認証メカニズム（802.1X または MACBASED）を指定する必要はありません。MAC ベース認証の設定であっても、MACBASED の指定をせずにコマンドを入力してください（指定すると、エラーになりコマンドが実行されません）。
- ポート認証（802.1X 認証または MAC ベース認証）と IGMP Snooping 併用時、IGMP パケットに対してポート認証が正しく動作しません。
- 802.1X 認証と MAC ベース認証併用時、SHOW PORTAUTH または SHOW PORTACCESS コマンドで表示される「Number of Supplicants」の値が正しくありません。

2.10 バーチャル LAN

 **「コマンドリファレンス」 / 「バーチャル LAN」**


- MAC アドレス VLAN に MAC アドレスを追加したとき、別の VLAN から、MAC アドレス VLAN に追加した MAC アドレスを送信元 MAC アドレスとして持つ機器同士で双方向のユニキャスト通信を行うと、パケットが転送されてしまいます。
- (9424Ts/XP-E のみ) イングレスフィルタリング無効の状態ですべての VLAN を作成した場合に、双方のタグなしポート間で、VLAN を超えてフレームを転送してしまうことがあります。

2.11 スパニングツリー

 **「コマンドリファレンス」 / 「スパニングツリープロトコル」 / [STP]**


スパニングツリー有効時、DISABLE SWITCH PORT コマンドを実行すると、SHOW STP PORT コマンドの表示項目「State」において、該当ポートが Blocking で表示されます。表示上の問題であり動作には問題ありません。

2.12 ラピッドスパニングツリー

 「コマンドリファレンス」 / 「スパニングツリープロトコル」 / 「Rapid STP」


Rapid STP 有効時、DISABLE SWITCH PORT コマンドを実行すると、SHOW RSTP コマンドに PORTSTATE パラメーターを指定して表示される「Enable」において、該当ポートが Disabled で表示されます。表示上の問題であり動作には問題ありません。

2.13 マルチプルスパニングツリー

 「コマンドリファレンス」 / 「スパニングツリープロトコル」 / 「Multiple STP」


SET MSTP コマンドで CONFIGNAME パラメーターに "NONE" を指定して実行すると、NONE という名前が設定されずに、CONFIGNAME パラメーターに指定されていた文字列が削除されます (NONE を指定した場合と同じ結果になります)。

2.14 クラシファイア

 「コマンドリファレンス」 / 「クラシファイア」

CREATE CLASSIFIER コマンドの ETHFORMAT パラメーターに 802.2-UNTAGGED を指定した場合、ハードウェアパケットフィルタによる制御が正常に動作しません。

2.15 ポリシーベース QoS

 「コマンドリファレンス」 / 「QoS」 / 「ポリシーベース QoS」


- トラフィックが同一 QoS ポリシー内の複数のトラフィッククラスにマッチした場合、CREATE QOS TRAFFICCLASS コマンドの MAXBANDWIDTH パラメーター (最大帯域設定) が正しく動作しません。
MAXBANDWIDTH パラメーターを指定する場合は、同一 QoS ポリシー内で、複数のトラフィッククラスにマッチするような設定 (IP と TCP、TCP と TCP ポートなど一方がもう一方を包括するようなフィルタの指定) をしないようにしてください。
- CREATE QOS FLOWGROUP コマンドの PRIORITY オプションと、CREATE QOS POLICY コマンドの MOVEPRIORITYTOTOS オプションが同時に設定されていると、どちらの機能も正しく動作しません。

2.16 ICMP (9424Ts/XP-E のみ)

 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

TTL=1 のパケットを受信しても、ICMP Time Exceeded メッセージが送信されません (traceroute を受けても、応答できません)。

2.17 DHCP クライアント機能

 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」

本製品を DHCP クライアントとして動作させた場合に、DHCP クライアントのリース時間経過後に送信される DHCP Discover の送信間隔は、60 秒を超えてからは 60 秒間隔で送信されるはずですが、60 秒間隔で送信されていません。

3 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

同梱の取扱説明書、および「CentreCOM 9424T/SP-E、9424Ts/XP-E コマンドリファレンス 2.0 (613-000699 Rev.A)」の補足事項です。


3.1 本製品起動時のご注意

本製品の電源をオンにしてから起動が完了するまでの間は、電源ケーブルを抜いたり、リセットボタンを押したりしないでください。

3.2 HTTP サーバー（サポート対象外）

本製品はデフォルトで HTTP サーバー（サポート対象外）が有効になっているため、TCP ポート 80 番がオープンしています。セキュリティを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にしてください。

3.3 認証サーバー

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」

ADD RADIUSSERVER コマンドで認証サーバーリストに追加された RADIUS サーバーと本製品が接続された状態で、ENABLE AUTHENTICATION コマンドにより認証が有効の場合は、RADIUS サーバーに登録したログイン名 / パスワードでしか本製品にログインすることができません。


本製品に設定されているユーザー名 / パスワードでログインする場合は、ENABLE AUTHENTICATION コマンドを実行しないでください。

3.4 SNMP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

- プライベート MIB の atiStkSwSysProductInfoTable 内 atiStkSwSysDCState が正しい値を返しません。リダンダント電源装置「CentreCOM RPS3204」使用時は、SHOW SYSTEM コマンドで本製品の電源とリダンダント電源装置の電源の On/Off を確認してください。
- ブリッジ MIB の dot1dStpPort Table 内の dot1dStpPortEnable を変更しても設定は変更されません。本製品では、ポート単位でスパニングツリープロトコルの有効 / 無効を変更することはできません。


3.5 エンハンスドスタッキング

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「エンハンスドスタッキング」

- マスタースイッチからスレーブスイッチに SNMP 経由でエンハンスドスタッキング接続している最中に、他のスイッチから該当のマスタースイッチに Telnet や SNMP による接続を行わないでください。
- SNMPv3 を使用して、エンハンスドスタッキンググループのスレーブスイッチにアクセスすることはできません。
- エンハンスドスタッキングを使用する場合、マスタースイッチとスレーブスイッチを接続するには、下記のとおり接続してください。
 - ・ スレーブスイッチ側は、Default_VLAN に所属するポートにマスタースイッチを接続してください。Default_VLAN 以外の VLAN に所属するポートに接続した場合は、IP インターフェースを作成して IP アドレスを設定しなければなりません。


- ・ マスタースイッチ側は、ローカルインターフェースに設定した VLAN に所属するポートにスレーブスイッチを接続してください。

3.6 ポートミラーリング

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

ポートミラーリング機能が有効の場合、「01:80:C2:00:00:00」などの予約マルチキャストアドレスをソースポートで受信すると、ミラーポートからパケットが重複して送信されます。

3.7 バーチャル LAN

 「コマンドリファレンス」 / 「バーチャル LAN」

バーチャル LAN の説明の記載に誤りがありましたので、訂正してお詫びいたします。

○ 「概要・基本設定」 「タグ VLAN」 の記載修正

(誤) ポートは、1つのVLAN にタグなしポート (Untagged Port) として所属できる

(正) ポートは、0～1つのVLAN にタグなしポート (Untagged Port) として所属できる


○ DELETE VLAN コマンドの備考・注意事項の削除

タグなしポートとして、どの VLAN にも所属しないポートが存在することが可能ですので、備考・注意事項の 1 番目と 2 番目の項目は必要ありません。

○ SET VLAN コマンドの備考・注意事項の追加


・ Default_VLAN しか存在しない状態で、タグなしポートをタグ付きポートに変更する場合は、一度ポートを削除してから、タグ付きポートに設定してください。

3.8 マルチプル VLAN (Protected Ports VLAN)

 「コマンドリファレンス」 / 「バーチャル LAN」

複数の Protected Ports VLAN が存在し (例えば VLAN10 と VLAN20 が存在するような場合)、アップリンクポートの一部を共有している場合、VLAN10 のクライアントから VLAN20 宛にパケットを送信すると、VLAN20 のアップリンクポートだけでなくクライアントポートにも送信されます。

3.9 ラピッドスパニングツリー

 「コマンドリファレンス」 / 「スパニングツリープロトコル」 / 「Rapid STP」

○ ACTIVATE STP/MSTP コマンドを実行すると、設定ファイルに保存されますが、ACTIVATE RSTP コマンドを実行しても、設定ファイルには保存されません。

○ Rapid STP を有効にし、トランクグループに所属したポートがリンクアップすると、そのポートの通信速度の設定に関係なく、ポートプライオリティが 64、パスコストが 2000 に設定されます。

3.10 クラシファイア


 「コマンドリファレンス」 / 「クラシファイア」

コマンドリファレンスに記載がありませんが、CREATE/SET CLASSIFIER コマンドには TCPFLAGS というパラメーターがあり、TCPFLAGS パラメーターを指定すると TCP 制御フラグの値に基づいてフィルタリングを行うことができます。パラメーターの書式は以下のとおりです。省略時は ANY。複数指定はできません。

[TCPFLAGS={URG|ACK|PSH|RST|SYN|FIN|ANY}]

本パラメーターでは、指定したフラグ以外のフラグの状態もチェックし、指定したフラグが立っていて、それ以外のフラグは立っていないというパケットだけがマッチと判定されます。例えば、TCPFLAGS=SYN という指定をした場合、SYN と ACK が立っているパケットはフィルターの対象になりません。

3.11 フォワーディングデータベース

 「コマンドリファレンス」 / 「フォワーディングデータベース」


- リンクダウンをとみなわない端末移動があった場合、学習機能により登録された MAC アドレスがエージングするまで、通信が復旧しないことがあります。
- IP インターフェースを複数作成すると、FDB にポート 0（ゼロ）の MAC アドレス（本製品の MAC アドレス）が複数表示されます。
- ポートグループ 1～12 とポートグループ 13～24 グループ間で通信を行った場合、同一の MAC アドレスがどちらのポートの FDB にも表示される場合があります。
- 予約マルチキャストアドレスを、FDB にスタティックエントリーとして登録することはできません。

3.12 ポリシーベース QoS

 「コマンドリファレンス」 / 「QoS」 / 「ポリシーベース QoS」


- CREATE QOS TRAFFICCLASS コマンドの MAXBANDWIDTH パラメーターに 0（ゼロ）を指定すると、帯域ゼロのトラフィッククラスが作成されますが、このトラフィッククラスが割り当てられた QoS ポリシー作成直後の一定量の通信、および本製品再起動直後の一定量の通信に限り、該当ポートからのトラフィックがフィルターされません（帯域ゼロになりません）。
- 出力ポートに QoS ポリシーに関連づけた場合、フィルターの対象となるのは学習済みのユニキャストアドレス宛のトラフィックのみです。未学習のユニキャスト / マルチキャストアドレス、およびブロードキャスト宛のトラフィックは対象になりません。また、学習済みのマルチキャストアドレス宛のトラフィックも対象になりません。

3.13 ハードウェアパケットフィルター

 「コマンドリファレンス」 / 「ハードウェアパケットフィルター」

「概要・基本設定」「注意事項」の「本体宛てのパケット」に、スイッチ本体（CPU）宛てのパケットに対し、ハードウェアパケットフィルター機能は動作しません、との記載がありますが、ハードウェアパケットフィルターはスイッチ本体（CPU）宛てのパケットに対しても動作します。訂正してお詫びいたします。

3.14 MLD Snooping

 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6 マルチキャスト」 / 「MLD Snooping」

マルチキャストルーターが接続されるポートが存在しない状態で、Multicast Listener Report を受信すると、すべてのポートに転送されます。
SET IPV6 MLDSNOOPING コマンドの ROUTERPORT パラメーターでポートを設定すれば転送されません。

3.15 IP/ 経路制御 (スタティック)

 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

「経路制御 (スタティック)」「デフォルト経路」の設定手順2「VLAN インターフェースに IP アドレスを割り当てます。」のコマンドの記載に誤りがありましたので、訂正してお詫びいたします。

(誤) **ADD IP INT=vlan-orange IP=192.168.20.1 MASK=255.255.2550**

(正) **ADD IP INT=vlan-orange IP=192.168.20.1 MASK=255.255.255.0**

3.16 複数ポートから 1 ポートへの通信

- Jumbo フレームを複数ポートから 1 ポートに対して同時に送信すると、受信した 1 ポートからフレームが転送されません。
- ポートグループ 1 ~ 12 とポートグループ 13 ~ 24 間の通信において、複数ポートから 1 ポートに対して同時にパケットを送信し、パケットロスが発生した場合、送信ポートによってパケットの損失率にばらつきがあります。

4 未サポートコマンド (機能)

以下のコマンド (パラメーター) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

- **9424Ts/XP-E の以下の機能**
以下の機能は、9424Ts/XP-E では現在サポート対象外です。
 - ・ ハードウェアパケットフィルタ (アクセスコントロールリスト)
 - ・ QoS/ ポリシーベース QoS
 - ・ 攻撃検出
 - ・ IGMP Snooping
 - ・ MLD Snooping
- **以下のコマンド (パラメーター)**
SET SYSTEM DISTINGUISHEDNAME
MENU
SET SWITCH CONSOLEMODE
SET AUTHENTICATION METHOD=TACACS
ADD/DELETE TACACSS SERVER

SET SWITCH PORT
[BACKPRESSURE={YES|NO|ON|OFF|TRUE|FALSE|ENABLED|DISABLED}]
[BPLIMIT={1..7935}] [FCTRLLIMIT={1..7935}] [SPEED={1000MFULL}]
SET SWITCH PORT SECURITYMODE=PACONTROL
CREATE/DESTROY/ADD/DELETE/SET/SHOW LACP
ENABLE/DISABLE/SET/SHOW/PURGE GARP
SET VLAN={vlanname;1..4094} [TYPE=PORTBASED]
CREATE/ADD/DELETE/SET/SHOW/PURGE PKI
SET/SHOW SSL
SHOW TCP

5 コマンドリファレンスについて

コマンドリファレンス「CentreCOM 9424T/SP-E、9424Ts/XP-E コマンドリファレンス 2.0 (613-000699 Rev.A)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、あわせてご覧ください。

コマンドリファレンスのパーツナンバー「613-000699 Rev.A」はコマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>